

2年

学校環境を生かした活動

『なかよし野菜ランド』の実践

函館市南北海道教育センター 小山みゆき

◆単元のポイント

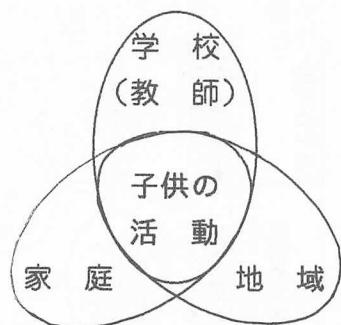
(1) 支援を大きな枠組みで

子供たちの活動がより主体的になり、さらに授業時間や学校での生活時間を越えて活動への意欲や意識が広がるとき、それらを具体的に支えるのは、必ずしも教師だけではありません。支援の担い手を学校（教師）、家庭、地域ととらえ、それら全てが子供たちとかかわりながら、栽培活動を支えていくことをねらい单元を構成します。

(2) 多様な活動形態と選択・複線型の活動を保障する

子供一人一人が自分の思いや願いを大切に活動を進めるには、子供自らの興味・関心や課題意識に基づいて、必要なものや方法を選択し、決定していくことが大切であり、それが子供自身の学びとなります。従って、それらに弾力的に応え、対応できる支援が不可欠です。本单元では、栽培する野菜の選択ばかりでなく、様々な場面で選択型、複線型の活動を保障するようにします。

- ① 野菜の育て方を調べる。
- ② 必要な材料や道具を自分たちで探す。
- ③ 野菜の世話の内容、行う時期、行う時間を選択する。
- ④ 栽培や成長の様子を知らせたり交流したりする方法を選択する。



◆単元の目標

- 野菜の栽培を通して、成長の様子に关心をもち、進んで野菜の世話をしようとする。
(関心・意欲・態度)
- 育てながら、調べたり、分かったり、感じたりしたことを工夫して知らせることができる。
(思考・表現)
- 野菜の栽培を通して、その成長や変化・不思議さに気付く。
(気付き)

◆単元の構成（17時間扱い）

なかよし野菜ランド

《留意点》

オリエンテーション（1）

- 思いや願いの生み出しを工夫する。

野菜ランドをつくろう（5）

- 野菜の育て方を調べる。
- 種や野菜を植えよう。
- 3つの栽培形態で活動する。

- 栽培対象の選択をさせるとともに、調べたり、道具を探したりする活動を通して、自分たちで育てる意識をもたせていく。



家庭で育てる好きな野菜

- 学校での栽培経験の発展
- 家族の栽培経験を生かした支援
- 栽培活動を通じた家族内の交流と家族からの評価

- 看板やグループや個人の野菜の立て札など、子供たちの発想や工夫を生かした野菜ランドにしていく。

一人一鉢のミニトマト

- 個人の活動の保障
- 世話の仕方や成長の様子など話題の共通化を図る素材として

地域の人々との関わり 地域の家庭菜園の発見

グループごとの野菜

- 育てたい野菜の実現
- グループ内での協力や交流
- 多様な栽培方法の選択
- 他のグループとの交流

野菜のお世話を工夫しよう（5）

- お世話の仕方の交流
- お世話の仕方や活動順の選択

- 家庭や地域での情報を交流したり、地域の方や保護者に野菜の先生として協力してもらう。
- 野菜の先生も招待して交流やお礼の場とする。

野菜パーティーをしよう（6）

◆実践するにあたって

この実践では、地域探検と関連させることで、活動の時間と空間にひろがりが生まれます。学校以外で集めた情報や家庭での栽培の様子など、毎日短時間でも交流する「野菜ニュース」の時間も、長期間にわたる栽培活動に対する活動意欲を持続させる上で、大変有効です。